



1\_ 主将としてチームをまとめた高野優選手。1番打者として打撃でもチームを引っ張る存在 2\_ 3塁打となる長打を放って出塁する佐藤啓梧選手(吾妻小6年) 3\_ 相手チームの守備に揺さぶりをかける渡部湧斗選手(長瀬小6年) 4\_ 7回13奪三振の好投を見せた佐瀬夢翔選手(長瀬小6年)



## 猪苗代スポーツ少年団ソフトボール部が全国大会に出場 第35回全日本小学生男子ソフトボール大会

第35回全日本小学生男子ソフトボール大会は8月7日から11日まで滋賀県守山市で開催され、本町から猪苗代スポーツ少年団ソフトボール部が出場しました。同部は、6月に相馬市で開催された県総合体育大会ソフトボール大会で準優勝を果たし、全国大会初出場を決めました。

同部には、猪苗代、長瀬、吾妻の3小学校2、6年生の児童23人が所属。学校の垣根を越え、週に4日ほど練習に励みながらチームの結束を高めています。

7月28日には選手らが町役場を訪れ、前後公町長と宇南山忠明教育長に全国大会出場を報告。主将の高野優選手は「キャプテンとしてチームを引っ張り、全国大会2勝を目指します」と抱負を話しました。同部に激励金を贈った前後町長は「けがには十分気を付けて頑張ってください」と話し、選手を激励しました。

迎えた全国大会1回戦の対戦相手は、大阪府の強豪チーム「K・Victory」。相手投手は、最速95km/hの速球を誇る今大会屈指の左腕。鋭く伸びるストリートと打者のタイミングを絶妙に外すチェンジアップで猪苗代スポ少打線を手玉に取ります。一方の猪苗代スポ少は、エースの佐瀬夢翔投手が初回に2番

から4番打者までを三者連続三振に抑える見事な投球でチームに勢いを与えます。

試合は両チームのエース同士が投げ合う投手戦の様相を呈します。3回裏、猪苗代スポ少の攻撃。1アウトランナー3塁と先制点のチャンスを作りますが、相手チームの好守備に阻まれ、ランナーをホームに返すことができません。

佐瀬投手は13奪三振を奪う力投で7回を無失点に抑えませんが両チームともに得点を奪うことができず、試合は延長戦のタイブレーク(ノーアウト2塁からの攻撃)にもつれ込みます。8回表に3点を奪ったK・Victoryに対し、その裏の猪苗代スポ少は無得点に終わりがゲームセット。接戦の末、惜しくも初戦敗退となりました。

チームを率いた古川勇一監督は「子どもたちは、全国の舞台でも浮足立つことなく、日頃の練習の成果を発揮しました。その頑張り感謝しています。全国大会出場に際して応援していただいた町民の皆さんや現地をサポートしてくれた保護者の皆さんの期待に応えることができませんでしたが、この経験を生かし、今後も子どもたちと一緒にさらなる高みを目指します」と話しました。

### この経験を生かしたい

目標だった全国大会に出場することができてうれしかったです。チームは勝負所で強さを発揮することができたと思います。相手チームのピッチャーは、今まで県内では見たことがないスピードのボールを投げていて、得点することができませんでした。

全国大会では負けてしまいましたが、この経験をこれからのソフトボールのプレーに生かしていきたいです。

高野 優 主将

猪苗代小 6年

